

札幌市立和光小学校

〒001-0034

北区北34条西7丁目3-2

北
区

本校では、近隣の幼稚園・保育園と連絡を取り合い、運動会や参観日などを先生方に参観していただいたり、入学前の状況を教えていただいたりしている。

【札幌北幼稚園との連携】

1年生活科「もうすぐ2年生」

毎年、12月に札幌北幼稚園の年長の園児が100名程来校し、1年生の児童と交流している。生活科の学習で、園児と自分を比べ、自分の成長を振り返り、進級への期待感をもつことをねらいとしている。

1年生が塗り絵やパズルなどを作り、園児が色を塗ったり切ったりして一緒に楽しんで活動した。今年度は105名の園児が来校し、少し緊張しながらもとても楽しそうに活動していた。

【麻生保育園・エンジェル保育園との連携】

学習発表会では、毎年、近隣の幼稚園・保育園の園児を、1年生の最終練習に招待している。今年度は、麻生保育園とエンジェル保育園の園児が57名来校した。本校の1年生は、園児からたくさんの拍手と「おもしろかった」「とても上手だった」などの感想をもらい、自信を付けて学習発表会の本番に臨むことができた。

【成果】

- ・幼稚園・保育園の年長の園児が小学校に来校することによって、小学校入学への意欲と期待を高めることができた。
- ・1年生児童にとっては、園児と関わることで自分の成長を振り返ったり、思いやりの心を育んだりすることになり、自立への基礎を養うことにつながった。

【考察】

1年生児童にとっても園児にとっても、とても意味のある交流である。上記の保育園からは、札幌北幼稚園のように学習体験をさせてほしいという要望があり、数年後には、実施できるように受け入れ体制を構築する。また、本校の教職員と幼稚園・保育園の先生方との交流の機会をもち、小学校スタートカリキュラムについて検討していく。



【札幌北幼稚園と1年生との交流】



【入学に胸を膨らませる園児たち】

札幌市立新琴似西小学校

〒001-0911

北区新琴似11条15丁目1-5

【華園幼稚園との連携】

- ・ 来年の一年生と仲良くなろう近隣にある幼稚園。学校の隣に保育園もあるが、行事の関係で今年は単独園での交流となった。5年生は、6年生になると一年生のお世話をしている。入学前の時期から園児たちの様子や特性などを理解しておくことでスムーズに補助に入ることができることから、毎年実施している。
- ・ 幼稚園も訪問し、様子を観察したり招待したときの活動を考えたりしている。



【ゲームコーナーのコイン落としで並んでいる】

【成果】

- ・ 入学前に小学校を体験してもらうことで、小学校への期待感をもたせることができた。
- ・ 教師同士の連絡を通して児童の理解を深めることに役立たせることができた。
- ・ 5年生は毎年、楽しみにしている。

【考察】

- ・ 毎年継続して実施してきていて、5年生の児童にとっては新鮮な活動である。
- ・ その一方、交流も初めの一步から毎年始まるので、活動に発展性が見られない。
- ・ 継続した交流のためには数年計画で活動を考えていく必要があるが、3年生や4年生からというのも児童の発達段階を考えると無理がある。



札幌市立太平小学校

〒002-8021

北区篠路1条2丁目6-20

【あかつき篠路保育園・太平保育園との連携】

本校では毎年学習発表会の時期に、あかつき篠路保育園と、太平保育園と1年生との交流を行っています。学習発表会の前後(今年度は前)に交流会を設定し、1年生が劇などを発表し、保育園の子どもたちに見せています。その後、今年度はミニ探検で学校の中を園児たちが見て回りました。

校区にある保育園との交流を継続して行ってきたことにより、今では互いの先生の交流も自然になされています。連携先との関係も大変良好です。

【成果】

保育園との交流が活発になったことで、園児たちは小学校の様子を早い段階でイメージできるようになり、交流会を楽しみにしていると聞いています。

また、太平小学校の1年生も自分たちより下の子たちとの交流で、「しっかりやろう」「楽しく過ごそう」という意欲にあふれ、成長が期待される会になっています。

教職員同士の信頼関係も生まれ、引継もきめ細やかに行われるようになってきています。

【考察】

お互いに無理のない形で取り組むことを第一に考え学習発表会前後に設定しました。1年生は園児に自信をもって披露できるものがあり、園児にとっても就学時健診前後ということで、小学校を意識する良いタイミングであると考えています。

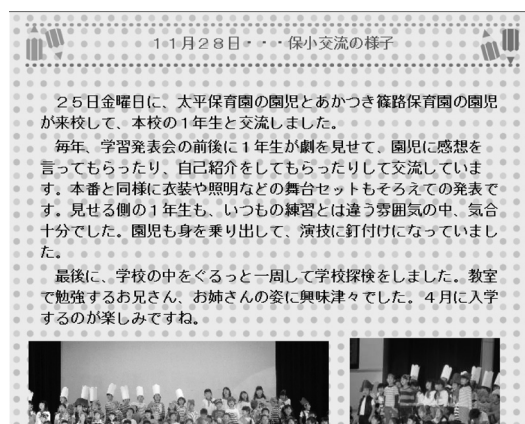
幼保小連携推進協議会も同じグループになり、もっと自然な形での交流もできないかと話題になっています。たとえば、本校のグラウンドに園児が遊びに来る時間を設ける計画も話し合っています。事前の話し合いをもたなくても、「いつでもどうぞ」と言える体制や関係づくりに、今後とも努めていきたいです。



【学習発表会の劇を保育園の子どもたちに見せています】



【園児たちも、マイクを使って自己紹介をしました】



【太平小学校ホームページで紹介】

札幌市立新琴似南小学校

〒001-0901

北区新琴似1条3丁目1番地1

【新琴似中央保育園との連携】

- ・総合的な学習の時間「幼稚園・保育園交流」で実施。

【ねらい】

園児を喜ばせたいという思いや願いをもって、その達成に向けて、様々な情報(日常生活の中で小さい子と接した経験、保育士から聞いた話や下見で得た情報など)をもとに、交流内容や方法を考え、園児との交流をよりよいものにしていくことができるようにする。

- ・5年生が企画した遊びを通して、保育園児(2歳児・3歳児・4歳児・5歳児)と交流する。
- ・一昨年度から継続して実施している。
- ・新琴似中央保育園の園児の一部が、新琴似南小学校に就学予定。



個や少人数とふれあうグループ

【成果】

- ・計2回の交流を進めていく中で、相手の立場を考えて接する力が育った。
- ・交流の前にグループのリーダー(児童)が保育園に行き、保育園の先生方に遊びや進め方のアドバイスをもらった。綿密に打合せができたため、当日はスムーズな交流が行えた。
- ・交流①の準備段階では、就学前の子どもとの交流経験が無い児童が多く、園児との交流を具体的に想像できていなかった。しかし、交流①で園児と触れあったことで、交流②では、より園児に合った遊びの内容を考えることができた。また、目線を合わせて話すこと・相手が聞いてくれる話し方なども考えて、交流を行うことができた。2回の交流を通じて、児童の成長が見えた。

・保育園交流をとっても楽しみながら、積極的に活動に取り組む児童が多かった。

【考察】

- ・交流を2回行うことで、交流①の反省を生かしながら、交流②の計画・実施を行うことができた。回数を増やすことで、さらにPDCAサイクルが確立し、児童の成長が見えるだろうが、時数の確保は難しい。
- ・保育園と小学校の行事の兼ね合いを見ながら、日程調整をすることが必要。



身体を動かしてふれあうグループ

札幌市立新光小学校

〒001-0901

北区新琴似1条12丁目1-1

【そうせい幼稚園・新川北保育園との連携】

幼稚園とは年間4回、保育園とは年間2回、交流を行っている。

◆種いもを植えよう（5月）

種いもを植える時は、園児と児童が交互になり協力して植えている。また、その後は、小学校の遊具等で一緒に遊んで交流をしている。



小学校の畑で幼稚園児と一緒に種いもを植えている様子

◆おいもほり・おいもパーティー（8月）

いもの収穫後は、茹でた芋と一緒に食べ、収穫できた喜びを味わいながら交流をしている。

◆学習発表会見学（11月）

幼稚園の園児と保育園の園児が1年生の練習風景を見学に来る。



おいもパーティー

◆小学校探検（2月）

学校内の様々な教室を見学したり、1年生の授業風景を見学したりしている。また、学校の先生への質問コーナーなどを設け、子どもたちの疑問や不安などにも応える場面も設けている。

上記の他にも、幼稚園、保育園の先生に小学校に参観に来ていただき、子どもたちの様子を見学してもらったり、小学校からも幼稚園に1年の担任が訪問したりなど、子どもたちの成長の様子を交流し合い、お互いの教育活動の充実を図っている。

【成果】

- ・連携の回数を重ねていくことで、学校生活への慣れや、不安の解消につながっている。また、連携を進めていく中で、実際に小学校に来ることにより、スムーズに学校生活に入れる子が多くなっている。1年生にとっては、学習発表会や授業風景を見学してもらうことにより、お兄さんお姉さんの意識をもって学習活動に取り組むことができた。

【考察】

- ・保護者にとっても幼稚園や保育園との交流があることで、大きな不安もなく、就学がスムーズにできたと大変喜んでいる。
- ・年に数回の交流であるため、どのような活動が適切かを検討する必要がある。お互いが無理なく行える形でカリキュラムを編成し、継続していきたいと考えている。

【つよし幼稚園との連携】

～なかよし交流会 ～ 年に3回 幼稚園のお友達の交流

屯田南小学校では校区内にあるつよし幼稚園の年長の幼児さんと1年生とで、年3回の交流会を実施。

- ・1回目：10月 つよし幼稚園にて ゲームを中心とした集会
- ・2回目：12月 屯田南小学校にて 学校の教室などを案内
- ・3回目：2月 屯田南小学校にて 雪中運動会



初めての交流は、つよし幼稚園にうかがいました。幼稚園のお友達に優しく声をかける「お兄さん・お姉さん」の1年生

1回目の交流は顔合わせとして、つよし幼稚園を訪問しての交流、2回目は屯田南小学校にきていただき小学校の学校案内、3回目は雪遊びと、小学校の入学にむけて、「学校は楽しいところ」という意識を高めていける活動を考え実施している。2・3回目は、小学校で行うことで入学に向けての期待感を高めることをねらいとしている。

【 成 果 】

- ・幼稚園との交流を行うことで、1年生は「自分たちはお兄さん・お姉さん」という意識が生まれ、「幼稚園の子どもたちに伝えるにはどうすればいいのか」ということを、自分たちの経験を通して一生懸命考えられるようになった。
- ・幼稚園の先生とも顔を合わせる機会が増えることで、お互いの取組や子どもの様子などを交流することができるようになった。



2回目の交流は、小学校に来ていただき、学校を案内しました。まずは「よろしく願います」の気持ちを込めて自己紹介と握手からスタートです。

【 考 察 】

- ・この取組を継続していくことで、本校では生活科のカリキュラムに位置付け、学習の一環として取り組むことができている。その取組が記録化されることで、次の1年生にも内容が引き継がれ、活動を続けることができている。
- ・お互いの交流をすることで、幼稚園と小学校が顔を合わせる機会が増え、教員間の距離が縮まった。子どもの様子を交流し合いながら、入学に不安がないよう、引き継ぐことができる。
- ・現在はつよし幼稚園との交流がメインであるが、校区内にある屯田保育園、すずらん保育園とは、行事の見学など、今後も双方に無理のない形でのつながりを模索していきたいと考える。



小学校にあるパソコン室を紹介する1年生。幼稚園にはないお部屋に幼稚園のお友達も珍しそうにしていました。

札幌市立百合が原小学校

〒002-8081

北区百合が原6丁目5番1号

北
区

【楽しみながら活動することで、一緒にやってみたい、という思いが膨らむ連携】

＜連携に至る経緯＞

入学当初、「学校ってどんなところ？どんなことをするの？」と1年生から質問があった時、「兄姉がいるから去年学校に来たことあるよ」「年長の時、招待されて学校に来たよ」と、子どもから自然に教え合う姿が見られ、事前に小学校と関わりをもつことの重要性を改めて認識した。

＜連携先との関係＞

本校と百合が原幼稚園は、徒歩5分の場所にあるため、交流が容易にできる利点がある。他園に比べると卒園後に入学する児童も多い。そこで、幼稚園の年長組に小学校とはどんなところなのかを経験してもらおうとともに、1年生、5年生にとっては、触れ合うことで、新1年生を迎え入れる気持ちを高めていけると考えた。



【じゃんけん列車～小学校体育館で】

＜連携の様子＞

7月	「体育館で一緒に遊ぼうよ」（1年生と体育館交流）
10月	「ようこそ百合が原幼稚園へ」（1年生と幼稚園ホールで発表会文化交流）
11月	「学習発表会を紹介します」（1年生と体育館で発表会文化交流）
12月	「教室で一緒に遊ぼうよ」（5年生と教室で交流）
1月	「仲良く遊ぼうよ」（5年生と体育館で交流）

【成果】

- ・「楽しかった」「入学したら、一緒に遊んであげたい」と、1年生が幼稚園児を迎え入れたいという気持ちを高めることができた。
- ・新1年生にどのように関わればよいのか、5年生が考えるきっかけとなり、4月からお世話することを自分事として捉えられるようになった。



【ぱっちゃんがえる～5年生教室で】

【考察】

- ・毎年続けていくことで、小学校と幼稚園とのつながりが深まっていく良さがある。
- ・前年度は公園での交流が行われたが、活動を見直すなどして改善を図っている。
- ・触れ合いを主の目的とし、事前の準備にあまり時間を必要としない活動であれば、交流を増やすことも可能であると考えられる。

札幌市立屯田北小学校

〒002-0859

北区屯田9条3丁目4-1

【幼稚園・保育園との連携】

本校は、生活科のカリキュラムに幼保連携を位置付け、隣接する「太陽こころ幼稚園」「屯田桃の花保育園」「大藤保育園」との交流を進めている。

今年度は、1年生生活科での「むかしーランドへ招待しよう」2年生生活科での「わくわくスイミーランド」での活動に園児さんを招待し、学習テーマに沿ったゲームを体験してもらうことで交流を深めている。(本校雪カリキュラムと連動し、外での活動になる年もある)

低学年において、幼稚園や保育園の子どもたちに対しての相手意識をもち、「どのように関わることが大切か」というコミュニケーションの基礎を考え、身に付ける学びの場となっている。

また、4年生は総合的な学習の時間「屯田ウォーカー」の学習で、近隣の幼稚園に訪れ、園児と交流を行う活動にも取り組んでいる。

学習発表会の際には、園児たちを招待し、本校の児童の劇や音楽の発表を鑑賞してもらっている。



2年生生活科

「わくわくスイミーランド」 屯田桃の花保育園さん

【成果】

交流を通して低学年の子どもたちが、園児たちをリードする場面が多くみられ、「お兄さんお姉さんの立場」で「責任感」を育てる活動となっていることが成果として挙げられる。また、事前の連絡などを通して、関係が密になり、新1年生の情報などの共有がしやすくなった。幼稚園、保育園からは交流内容について感謝の言葉をいただき、また園児からもお手紙などを低学年の子どもたち向けに作成していただき低学年の子どもたちも満足している。



【学習発表会を鑑賞】

【考察】

学校評価において、幼保連携の項目が低い傾向にあった。これは内容の評価というよりは、校内で活動内容の共有が不足していることが挙げられる。次年度は校内での掲示板や校務支援をつかった情報共有、学校HPによる保護者、地域への公開を足がかりに幼保連携のよさを共有したい。



1年生生活「むかしーランド」の 準備をする1年生